

Logisnext

**2024年3月期第1四半期
決算説明資料**

**2023年8月10日
三菱ロジスネクスト株式会社**

市場環境

- 世界経済は、インフレ抑制を目的とした各国中央銀行による金融引き締めが継続しているもののインフレは収まらず、またロシアによるウクライナ侵攻も長期化して収束が見通せない状況で、その成長は減速している。輸送運賃の高騰が収まってきた一方で、インフレ下において人件費、燃料費、部品費など広範囲でのコスト高の影響が大きくなっている
- 物流機器市場は、国内においてはコロナ禍前と同様の水準で推移。海外においては、米州は景気の減速感もあるが安定した物流ニーズのもと、前年度に引き続きコロナ禍前を上回る需要を維持。欧州はインフレにより景気が停滞、縮小傾向で推移しながらも、コロナ禍前と同様の水準を維持。アジアはインフレ・利上げの影響から若干弱含みに推移。中国はゼロコロナ政策の解除により回復基調にはあるものの、市場期待までに及ばない状況にある
- 当社においては、様々な部品供給の遅れによるリードタイムの長期化は解消傾向にはあるが、コスト高の状況は継続している。グループ全体としては十分な受注高を確保しつつ、国内、海外において欠品解消による生産整流化、出荷の促進を推し進め、それに伴って価格適正化の効果も拡大させてきている

連結業績概要

- 売上高は、日本、米州での販売台数増に加え、価格適正化の効果が寄与したことで、前年比+22.8%の増収
- のれん等償却前営業利益は、インフレ下のコスト高の影響を受けながらも、出荷の促進や価格適正化の効果が寄与して売上高が増加したことで、前年比+1,077.3%の増益

2. 決算ハイライト

(単位：億円)

損益計算書	FY2022/1Q	FY2023/1Q	前年同期比増減	
売上高	1,352.9	1,661.2	+308.3	+22.8%
営業利益 (のれん等償却前) (営業利益率)	10.8 (0.8%)	128.2 (7.7%)	+117.4	+1,077.3%
のれん等償却	26.8	25.0	—	—
営業利益 (営業利益率)	-15.9 —	103.2 (6.2%)	+119.2	—
経常利益 (経常利益率)	-14.7 —	96.2 (5.8%)	+111.0	—
親会社株主に帰属する 当期純利益 (当期純利益率)	-15.3 —	66.0 (4.0%)	+81.4	—

FY2022/1Q実績レート：USD = 129.57円 EUR = 138.12円 CNY = 19.58円

FY2022/4Q実績レート：USD = 135.47円 EUR = 140.97円 CNY = 19.75円

FY2023/1Q実績レート：USD = 137.37円 EUR = 149.47円 CNY = 19.56円

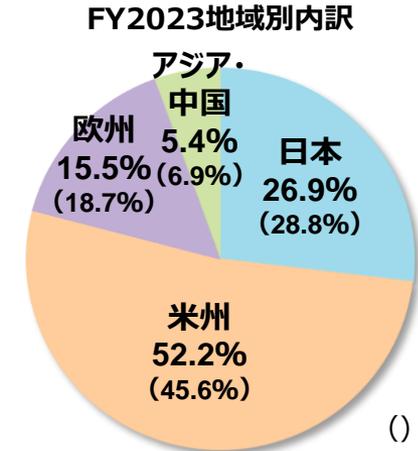
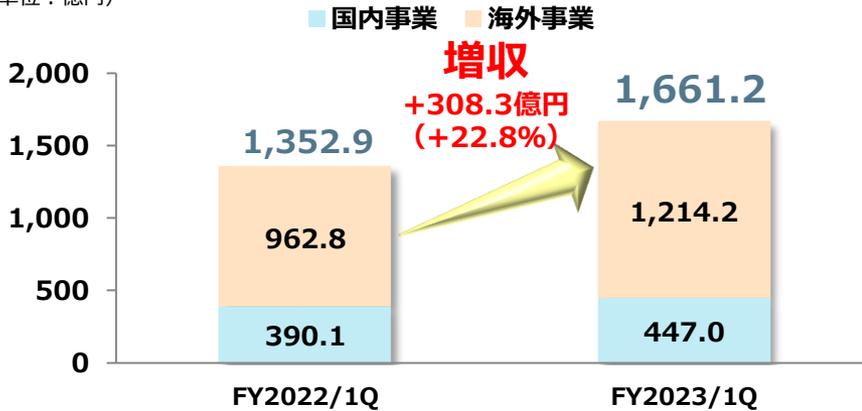
貸借対照表	FY2022/4Q	FY2023/1Q	前期末比増減	
総資産	4,754.3	5,087.6	+333.3	+7.0%
総負債	3,994.0	4,188.9	+194.8	+4.9%
純資産	760.2	898.7	+138.4	+18.2%

3. セグメント別業績

売上高

■ 国内及び米州での販売台数の増加及び価格適正化の効果が寄与したことで増収。また、為替の円安影響も追い風となり、トータルは前年比+22.8%の増収

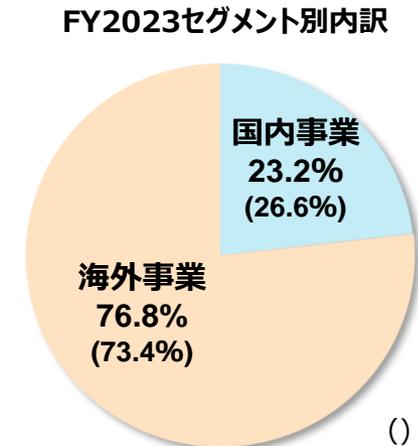
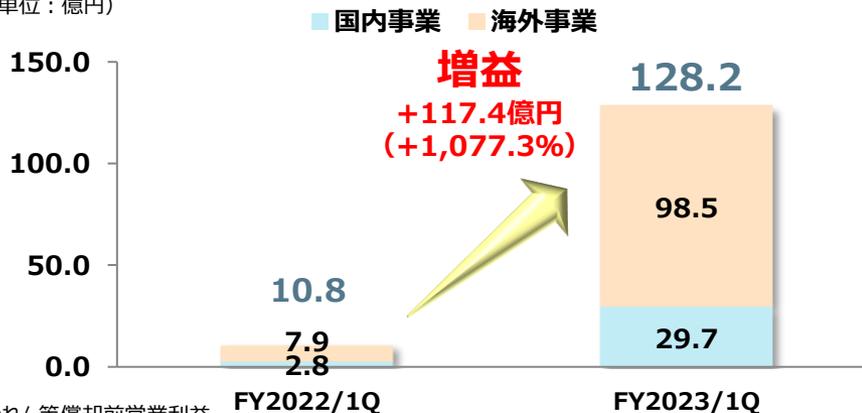
(単位：億円)



営業利益*

■ 国内事業はコスト高の影響を受けながらも円安による輸出部門の好調が寄与、海外事業は米州の販売台数増、価格適正化の効果、円安が大きく寄与し、トータルでは前年比+1,077.3%の増益

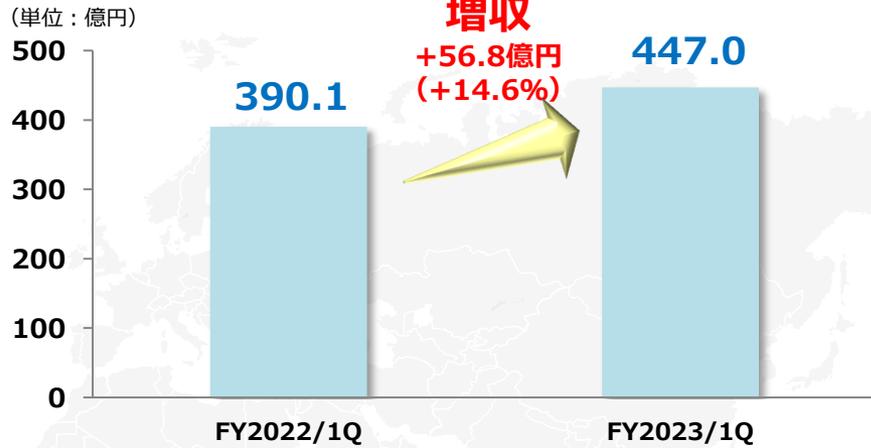
(単位：億円)



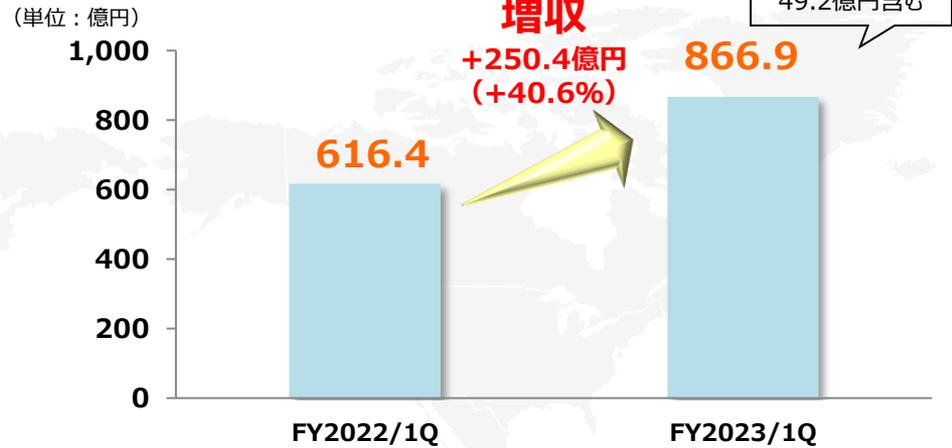
* のれん等償却前営業利益

4. 地域別売上高 (為替影響含む)

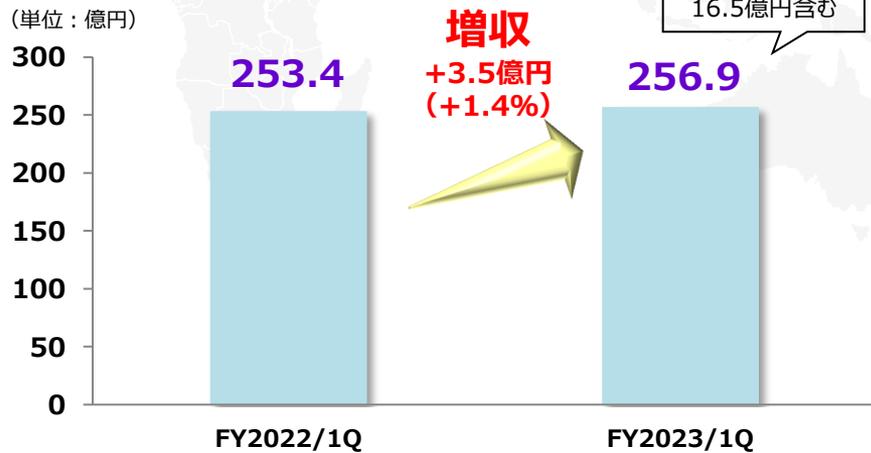
日本



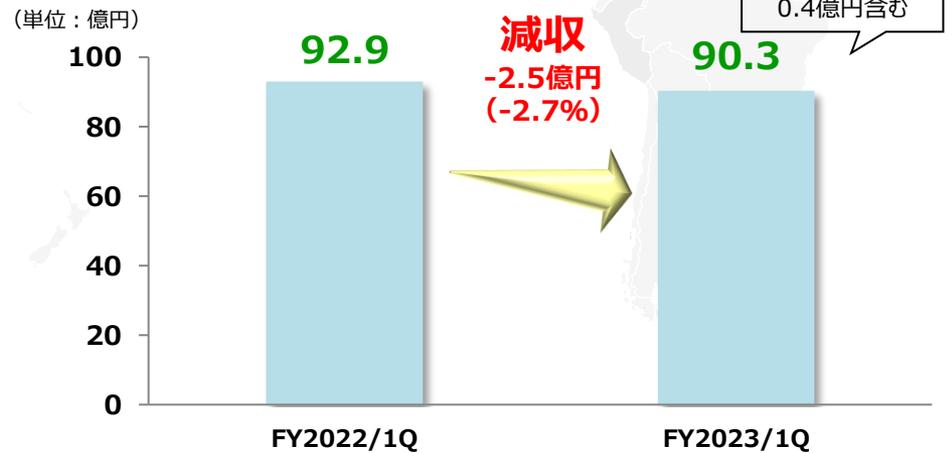
米州



欧州



アジア・中国



5. 連結売上高増減要因 (前年同期実績対比)

- 国内事業：部品欠品が解消傾向にあり、価格適正化の効果も寄与し始めたことで増収
- 海外事業：米州の販売台数増、EQD*の好調維持、価格適正化の効果、為替の円安影響が寄与。欧州、アジアは為替を除くと減収となった

(単位：億円)

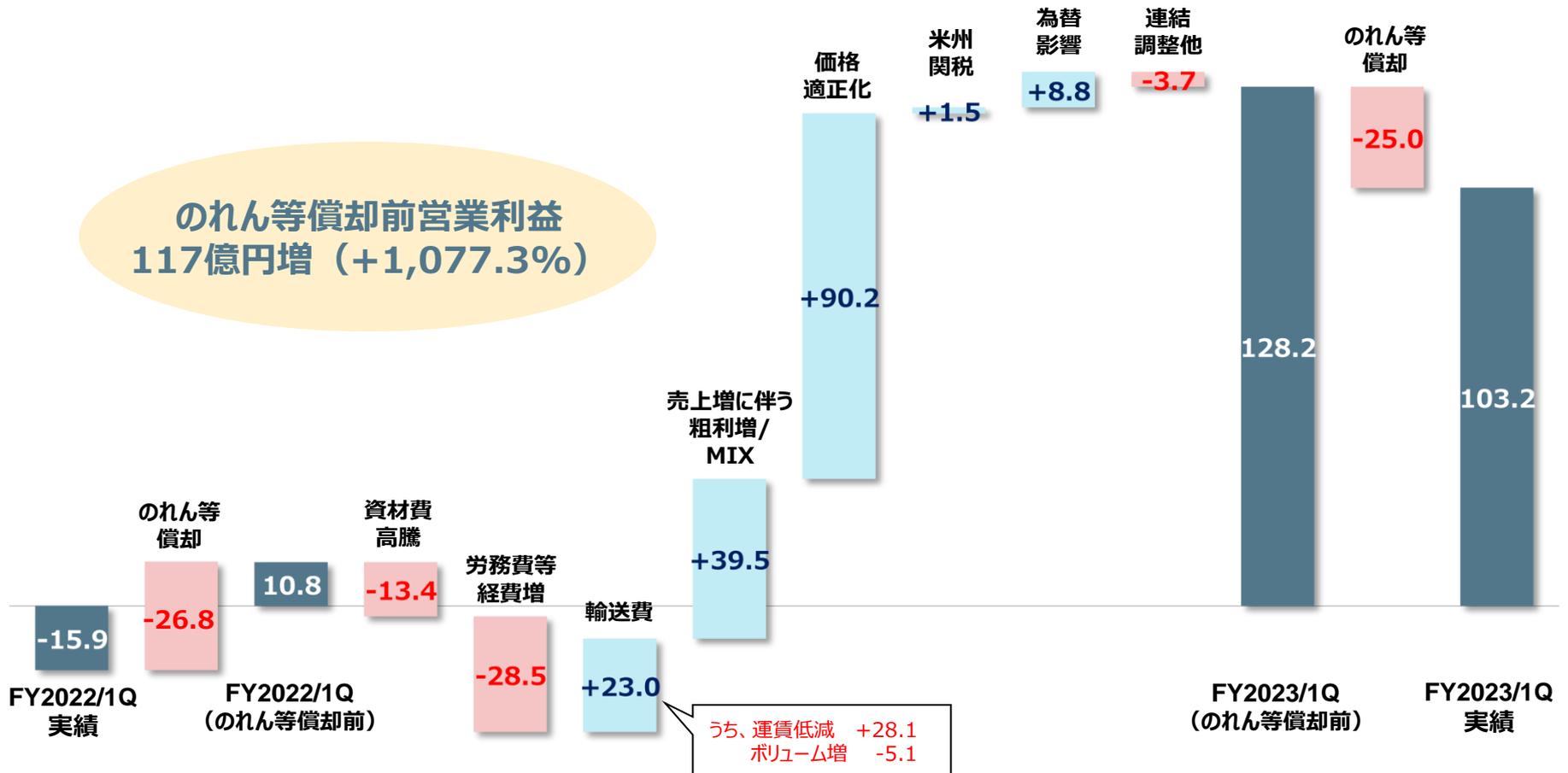


* EQD社：Equipment Depot, Inc.

6. 連結営業利益増減要因 (前年同期実績対比)

- 資材費は米州等でピークアウトした一方、日本では悪化。人件費等のインフレ影響も続く
- 売上高の増加、価格適正化の効果、輸送費低減が大きく寄与し、前年比+1,077.3%の増益

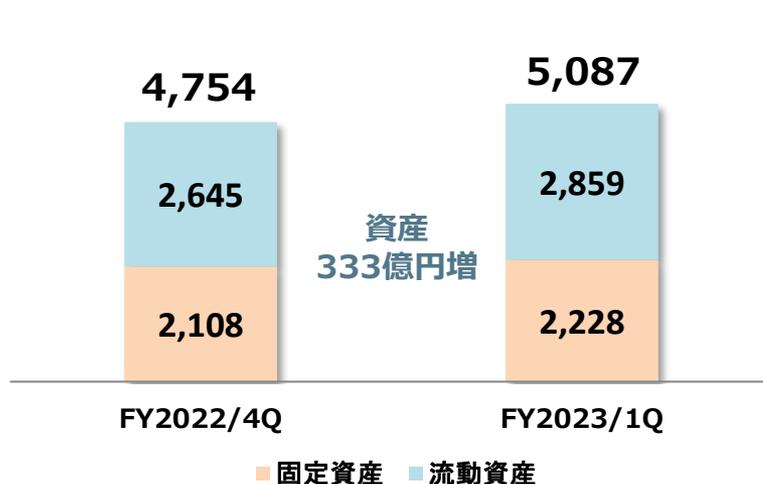
(単位：億円)



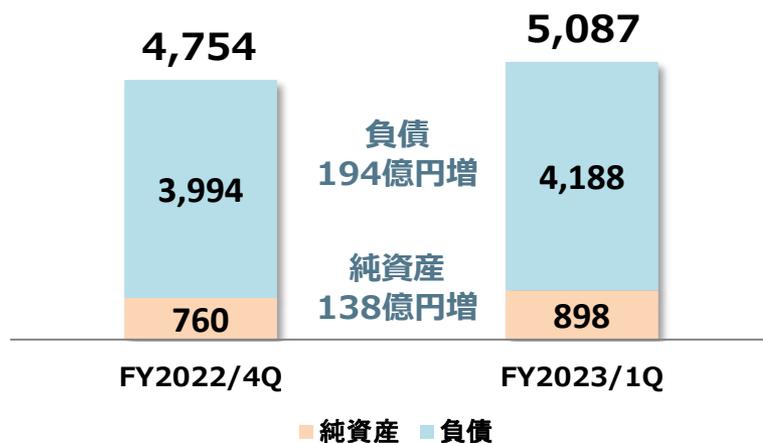
7. 連結貸借対照表

- 増益による利益剰余金増及び為替換算調整勘定の増加により純資産は増加。自己資本比率は15.9→17.6%に改善

資産



負債／純資産



(単位：億円)

項目	FY2022/4Q	FY2023/1Q	増減
流動資産	2,645	2,859	+214
(有形固定資産)	1,489	1,592	+103
(無形固定資産)	411	408	-3
(投資その他)	208	226	+18
固定資産計	2,108	2,228	+119
資産合計	4,754	5,087	+333

流動資産：増

為替の換算影響、棚卸資産の増加等

固定資産：増

為替換算影響及びリース資産の増加等

項目	FY2022/4Q	FY2023/1Q	増減
流動負債	2,087	2,131	+44
固定負債	1,906	2,057	+150
負債合計	3,994	4,188	+194
純資産計	760	898	+138
負債・純資産合計	4,754	5,087	+333

負債：増

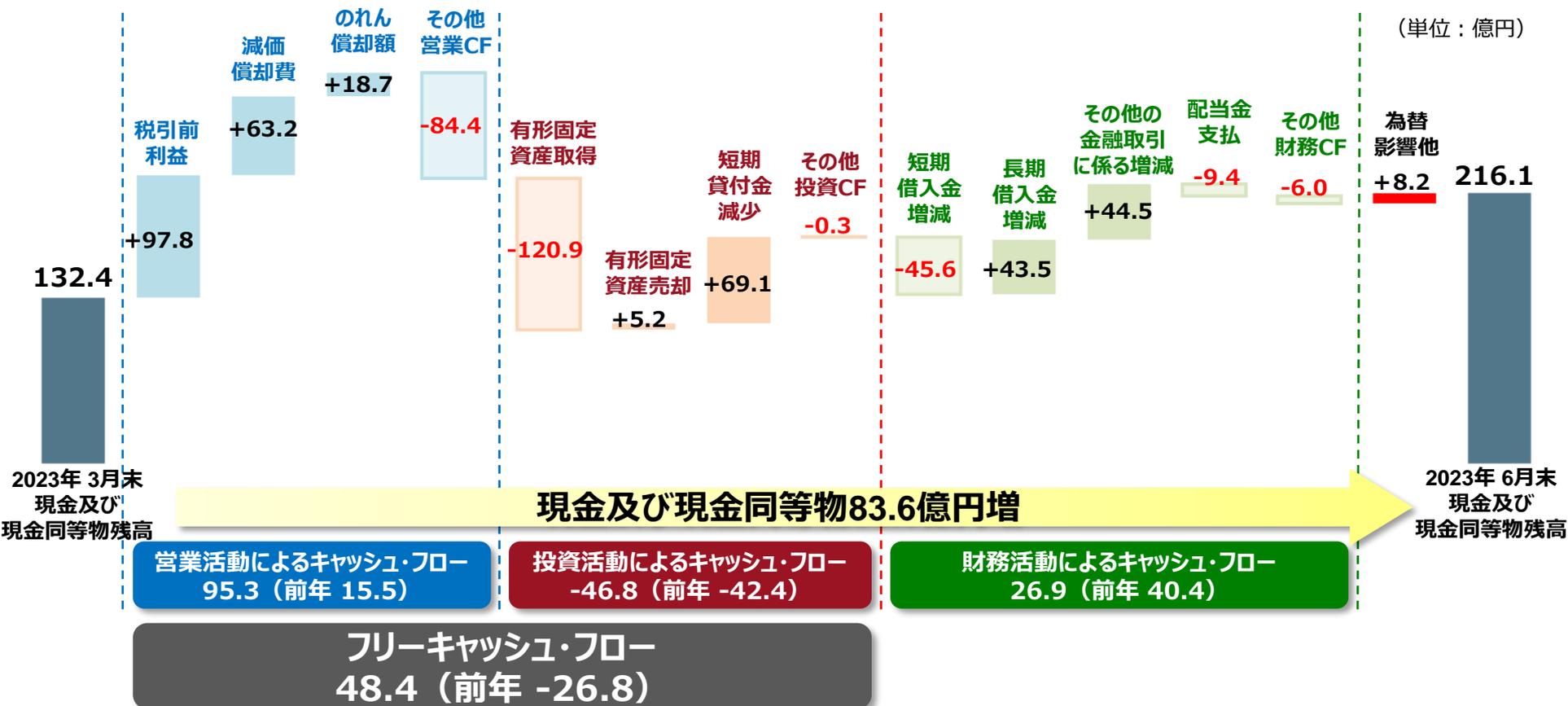
為替の換算影響及び長期借入金の増加等

純資産：増

利益剰余金及び為替換算調整勘定の増加

8. キャッシュ・フローの状況

- 営業C/Fは、棚卸資産等の運転資本が悪化したものの、税引前利益が増加したことにより前年比+79.7億円
- 投資C/Fは、短期貸付金回収額の減少や有形固定資産の取得による支出が増えた一方、前年同期には米州での子会社取得による支出があったため、前年比-4.3億円と僅かな悪化となった
- フリーC/Fは、営業C/Fが改善したことにより前年比+75.3億円



【参考資料】主な経営指標

	指標	算式	FY2022/4Q		FY2023/1Q*1		コメント
				のれん等償却前*2		のれん等償却前*2	
総合	総資本利益率 (ROA)	$\frac{\text{当期純利益}}{\text{総資本}}$	1.6%	3.3%	5.4%	6.4%	売上高の大幅増加、価格適正化の取り組み効果、為替の円安影響による業績回復に伴い、各指数が良化。
	自己資本利益率 (ROE)	$\frac{\text{当期純利益}}{\text{自己資本}}$	10.0%	12.6%	32.1%	23.8%	
収益性	売上高営業利益率	$\frac{\text{営業利益}}{\text{売上高}}$	2.4%	4.1%	6.2%	7.7%	
	売上高当期純利益率	$\frac{\text{当期純利益}}{\text{売上高}}$	1.1%	2.7%	4.0%	5.4%	
効率性	総資本回転率	$\frac{\text{売上高}}{\text{総資本}}$	1.4回		1.4回		
	売上債権回転率	$\frac{\text{売上高}}{\text{売上債権}}$	6.8回		6.9回		
	棚卸資産回転率	$\frac{\text{売上原価}}{\text{棚卸資産}}$	4.7回		4.2回		
安全性	自己資本比率	$\frac{\text{自己資本}}{\text{総資本}}$	15.9%		17.6%		
	D/Eレシオ	$\frac{\text{有利子負債}}{\text{株主資本}}$	3.0倍		2.7倍		
株式関連	1株あたり利益	$\frac{\text{当期純利益}}{\text{発行済株式数}}$	64.82円	155.12円	247.84円	609.04円	株価： 2023年3月末：941円 2023年6月末：1,330円
	株価収益率 (PER)	$\frac{\text{株価}}{\text{1株あたり利益}}$	14.5倍	6.1倍	5.4倍	2.2倍	
	株価純資産倍率 (PBR)	$\frac{\text{株価}}{\text{1株あたり純資産}}$	1.3倍		1.6倍		

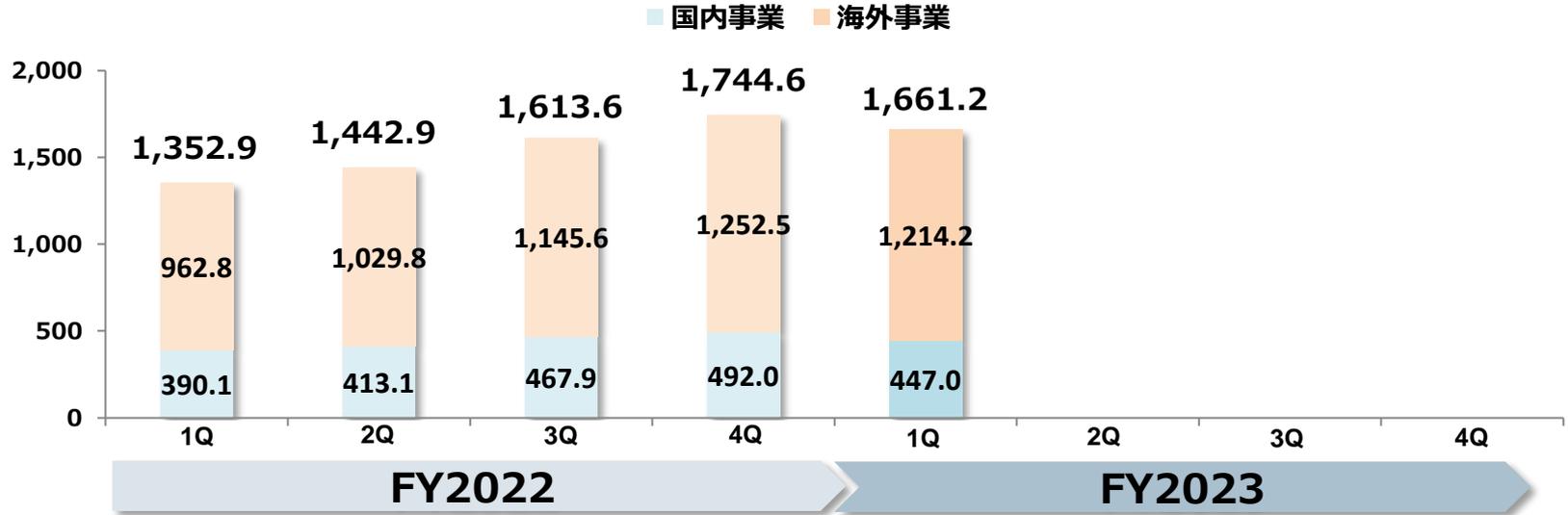
*1 PL項目は年換算して算出

*2 参考値

【参考資料】四半期推移 (事業別売上高・営業利益)

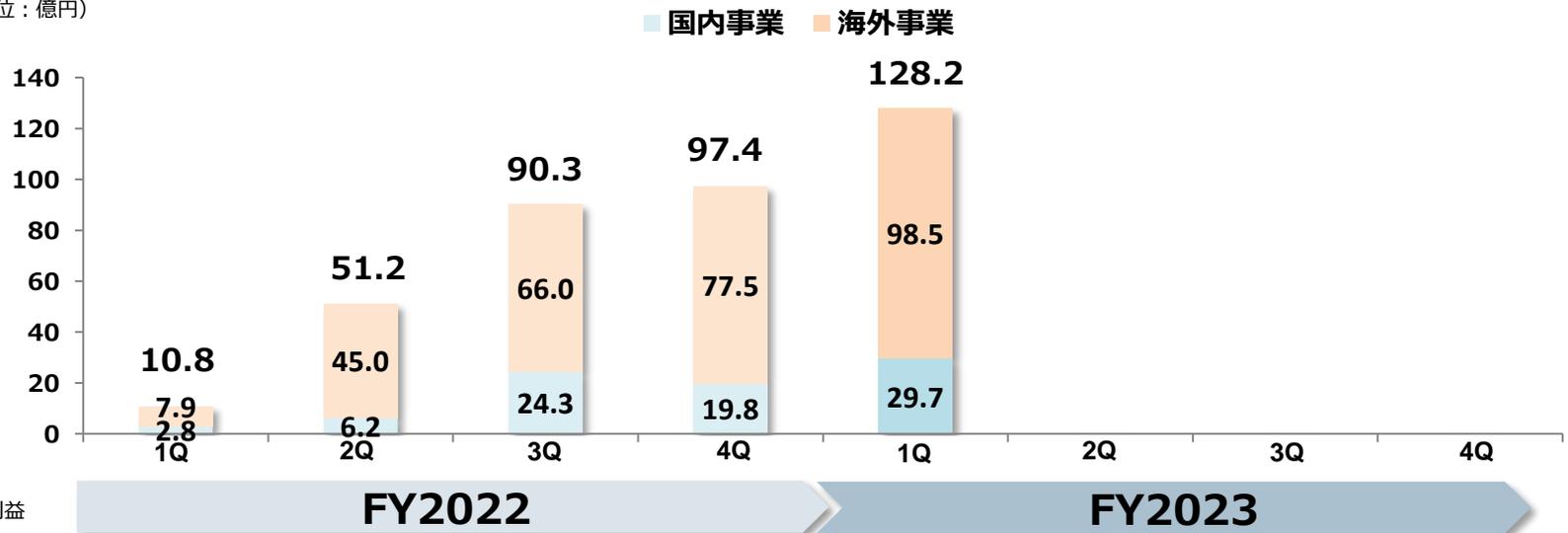
(単位：億円)

売上高



(単位：億円)

営業利益*



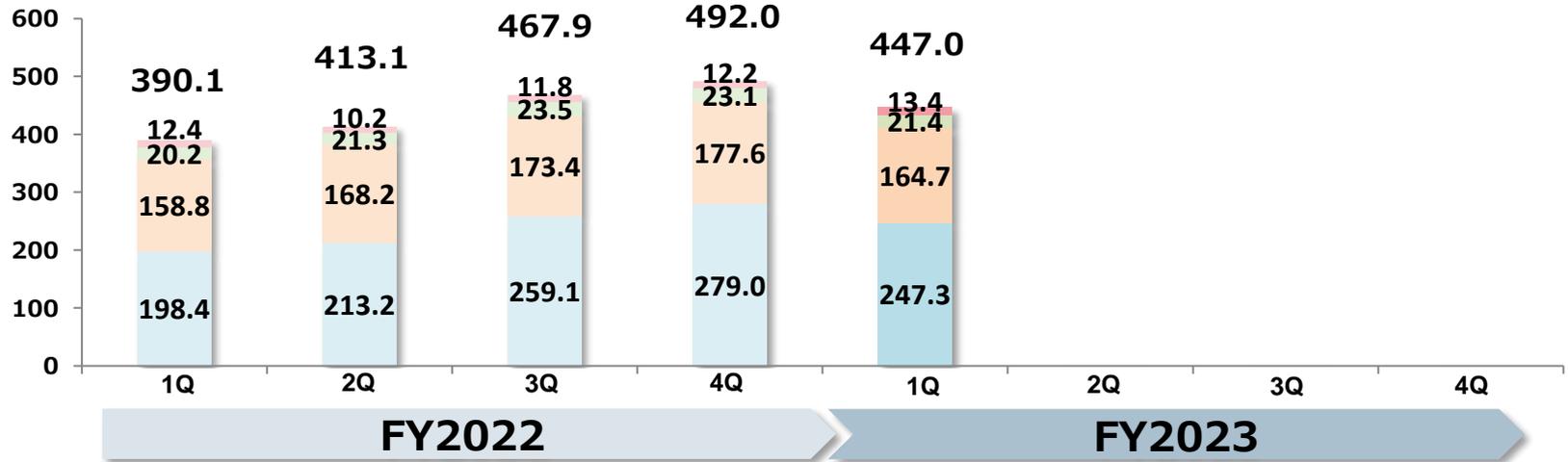
* のれん等償却前営業利益

【参考資料】四半期推移 (カテゴリー別売上高)

(単位：億円)

■ 製品 ■ アフターサービス ■ リースレンタル ■ その他

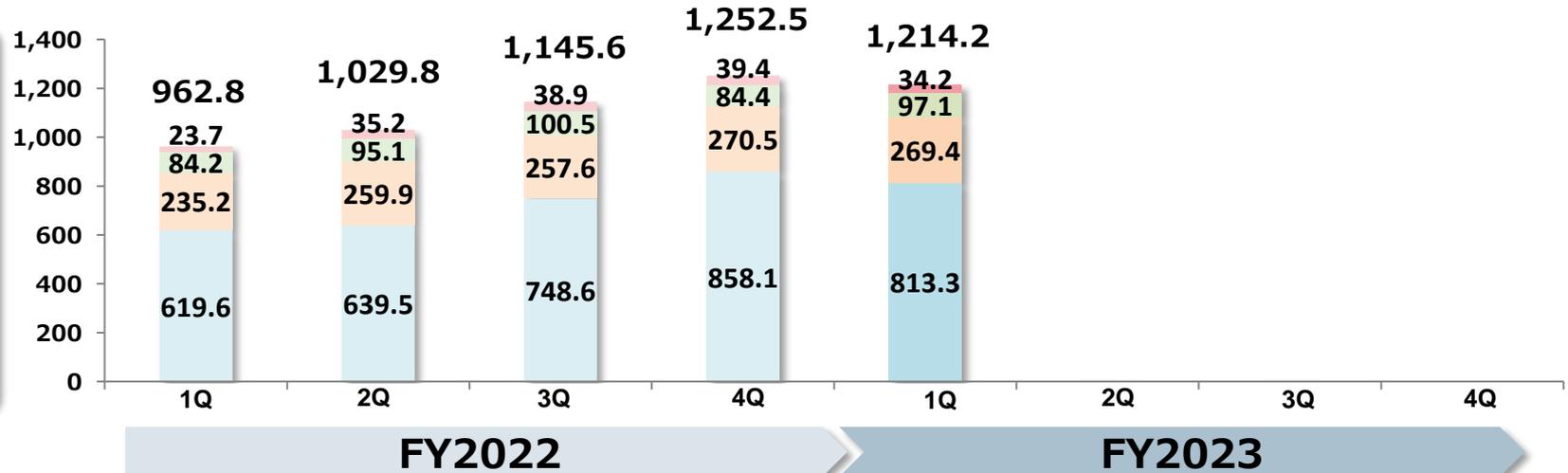
売上高／国内



(単位：億円)

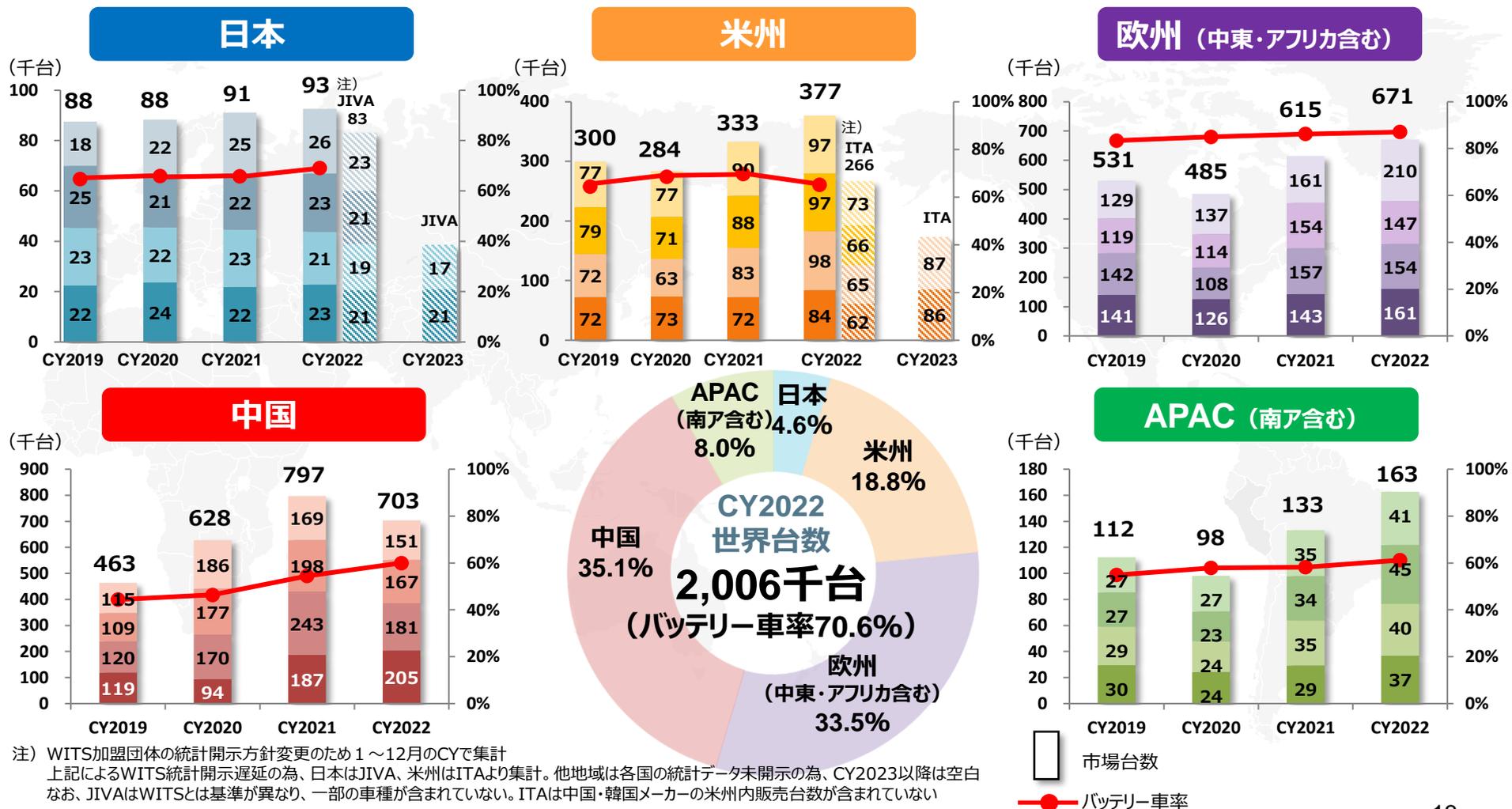
■ 製品 ■ アフターサービス ■ リースレンタル ■ その他

売上高／海外



【参考資料】フォークリフト市場動向【出荷】

■ 2023年1~6月において、日本(JIVA統計)は前年と同様の水準で推移、米州(ITA統計)は景気減速感はあるものの物流機器市場は堅調を維持しており、前年を上回る需要が継続

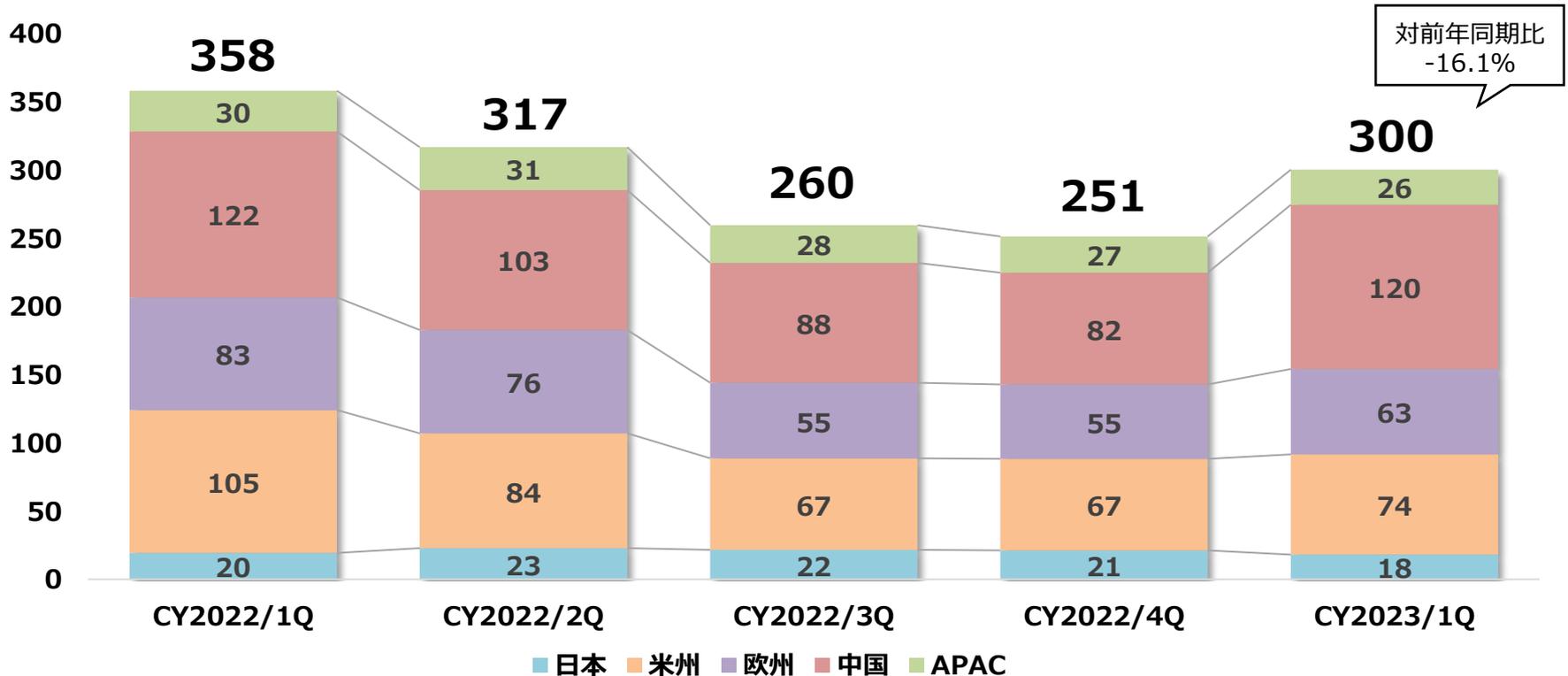


【参考資料】フォークリフト市場動向【受注】（四半期推移） Logisnext

- 世界的な景気減速により、前年同期比で全地域の受注は減少しているが、依然としてコロナ禍前を上回る需要で推移している

受注台数（ClassⅢ* 除く）

（単位：千台）



* ClassⅢ：自走式電動小型リフト

注) WITS加盟団体の統計開示方針変更のため1～12月のCYで集計

© MITSUBISHI LOGISNEXT CO., LTD. All rights reserved.

注意事項

- 本資料につきましては投資家の皆様への情報提供のみを目的としたものであり、売買の勧誘を目的としたものではありません。
- 本資料における将来予測に関する記述につきましては、目標や予測に基づいており、確約や保証を与えるものではありません。
- 将来における弊社の業績が、現在の弊社の将来予測と異なる結果になることがある点を認識された上で、ご利用ください。
- 業績等に関する記述につきましても、信頼できると思われる各種データに基づいて作成しておりますが、弊社はその正確性、安全性を保証するものではありません。
- 本資料は、投資家の皆様がいかなる目的にご利用される場合においても、ご自身のご判断と責任においてご利用されることを前提にご提示させていただくものであり、弊社はいかなる場合においてもその責任を負いません。

本資料に関するお問い合わせ

三菱ロジスネクスト株式会社 経営戦略室 苅屋・光行

〒617-8585 京都府長岡京市東神足2-1-1

TEL : 075-956-4419 FAX : 075-955-8993

URL : www.logisnext.com

Logisnext

三菱ロジスネクスト